



「アゼリアホール」で行われた「第15回フレンドリーコンサート」。多い時期にはステージに演奏者が乗り切らず、小学生が立って演奏したこともあったという

親から子へ、先輩から後輩へ
広がる音楽の輪

開催のきっかけは1986年。「池田北高校」の先生が声をかけ、「旧伏尾台小学校」の運動会で高校生と小学生が一緒にファンファーレを演奏した。「年齢や学校が違って、音楽でつながれる」。そんな気づきから2年後、「旧伏尾台小学校」・「旧細河小学校」・「旧細河中学校」・「池田北高校」の4校による第1回が実現。その後当時の「池田市教育委員会」の後押し

で、市の助成を受け「アゼリアホール」での開催が通例となった。以来、小・中学校3校が「ほそごう学園」として一体となるなど変化しつつも、地域に愛されるイベントであり続けてきた。

ずっと変わらない存在もいる。同コンサートのスタッフ、亀井真美先生だ。「旧細河中学校」の教員であった亀井先生は、第2回から同コンサートを見守り続け、定年退職後の現在も演奏を指導する。「卒業しても、知っている先生がいれば戻ってきてやすいでしょう」と亀井先生は話す。



「ほそごう学園」(池田市立細河中学校) 野々山 恵 先生
「旧池田市立細河中学校」・「ほそごう学園」元教員 亀井 真美 先生

「がんばっている子どもたちの姿を見て来てほしいです」と野々山先生。亀井先生は「昨年から呼びかけでたくさんの卒業生が参加してくれた。最後は明るく、パーッと楽しく終わりたい」と語る



長年コンサートに関わっている大人が多く、小・中学生にとっては毎年顔を合わせる身近な存在。別の教室では、ジャージ姿の中学生が小学生にアドバイスをしていた



「私たちにあってフレンドリーコンサートといえば亀井先生」と語るのは、地域の参加者でフルート担当の君塚麻里さんと、クラリネット担当の藤岡良子さん。「旧細河中学校」・「池田北高校」の卒業生で、同コンサート最初の6年間を知る2人だ。プランクを経て近年再び参加している。「子どもも金管クラブで、去年は親子4人がステージに揃いました。現役生の頃は親子で吹けるとは思いもよらず、嬉しかった」と藤岡さん。

一方で君塚さんは「中学生にとっては、高校生に教えてもらえる貴重な機会でした」と話す。「みんなであうまくなろう」という先輩たちの惜しみない姿勢が印象に残っているそうだ。難しい曲で小・中学生をリードし、裏方もこなす高校生の存在は大きかった。今回も数名が参加予定だが、「池田北高校」は今年度で閉校が決まっており、地域にとっても同コンサートにとっても、大きな節目となる。

第30回 フレンドリーコンサート

日時：12月23日(土・祝)
13:30～(13:00開場)
※入場無料
会場：ほそごう学園 体育館
(池田市伏尾台3-14)

演奏曲：「ドレミの歌」、「翼をください」、「ザッツ・ア・ブレンディ」ほか

取材協力

ほそごう学園

TEL：072-751-0731
HP：www.school.ikedaka.osaka.jp/hosogou-ac/



巻頭特集

最後の舞台に
さようなら、ありがとう

第30回 フレンドリー コンサート

30年にわたり子どもと大人、学校と地域を音楽でつないできたコンサートが今年幕を下ろす。合同練習会で長年の参加者に思いを聞いた。



子どもも大人も先生も
本番に向け、ただいま練習中

リズムに合わせて、多彩な楽器が「翼をください」を奏で始めた。ここは「ほそごう学園」音楽室。12月に開催される「第30回フレンドリーコンサート」(以下、同コンサート)の本番に向けて練習中だ。演奏者の年齢層は、小学生から中学生、高校生、そして大人と幅広い。

同コンサートは「ほそごう学園」(池田市立細河小学校)・「池田市立細河中学校」の金管クラブと吹奏楽部、「大阪府立池田北高校」(以下、池田北高校)の吹奏楽部、地域の参加者が一堂に会する音楽交流会。下は小学4年生から上は70代までが集い、8月から月に1度の合同練習会を行っている。年齢も所属も異なる集団が息を合わせる様子は、普段の部活動ではめったに見られない。子や孫の演奏する姿に昔の自分を思い出し、翌年から舞台上上がるようになる親や祖母も多いそう。各校の卒業生も数多く参加し、様々な年代を音楽でつなぐ、よい機会となっている。

長い歴史のある同コンサート。3年前から会場を「ほそごう学園」の体育館に移した。長年親しんだ「アゼリアホール」(池田市民文化会館)を離れ、ステージは小さくなったが、地域の人々がより気軽に足を運べるようになったという。そんなコンサートが今年、最後のステージを迎える。

30年の歴史に幕
最後だからこそ明るく楽しく

過去には200人がステージを埋めた同コンサート。少子化でメンバーが減少し、現在は大人も含めて60人前後となった。パート練習では楽器を始めて間もない中学生が小学生を指導しなければならず、苦労もあるという。反面、学年間の交流は活発だ。「中学生が小学生を教え、大人が中学生を捕う空気ができている。そのつながりが30年の歴史で培われたものだと思います」と「ほそごう学園」の野々山恵先生は話す。

奇しくも第1回と同じく、12月23日(土・祝)に本番を迎える「第30回フレンドリーコンサート」。最後を惜しむ声はもろろあるが、「ほそごう学園」の天羽寛子先生は「最後だからこそ明るく、良い30年間だったね、がんばったね」と言える会にしたい」と語る。オープニング曲は第1回の演奏曲であり、同コンサートのテーマソングである「ドレミの歌」が予定されている。演奏者と観客と一緒に歌うのが毎年恒例となっている特別な1曲だ。声を合わせて、音楽でつながる。を体験しよう。